

令和5年度全国学力・学習状況調査における 岡崎市立小中学校児童生徒の結果について

岡崎市教育委員会

1 調査分析概要（全国の平均正答率と比較して）

(1) 全体の様子

小学校においては、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての内容で「できている」状況である。算数の「数と計算」「変化と関係」「データの活用」が「できている」、「図形」が「おおむね満足できる」状況である。

中学校においては、国語の「書くこと」「読むこと」が「たいへんよくできている」、「話すこと・聞くこと」が「できている」状況である。数学は「数と式」「図形」「関数」「データの活用」すべての領域で「たいへんよくできている」状況である。英語は、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「書くこと」が「たいへんよくできている」、「話すこと（発表）」が「できている」状況である。

(2) 小中学校別各教科に関する問題の様子

《小学校6年生》

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	<p><u>できている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の意図と比較しながら、自分の考えをまとめる力がたいへん優れている。 原因と結果など情報と情報との関係について理解する力が優れている。 日常よく使われる敬語を理解する力が優れている。 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力がやや弱い。 学年別配当漢字表に示されている漢字を、文の中で正しく使う力が弱い。
算数	<p><u>できている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する力がたいへん優れている。 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する力がたいへん優れている。 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする力が優れている。 正三角形の意味や性質について理解する力がやや弱い。 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて説明する力が弱い。
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのは楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じている児童の方が正答率が高い。 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている児童の方が正答率が高い。 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる児童の方が、正答率が高い。 「朝食を毎日食べる」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」など、規則正しい生活を送る児童の方が、正答率が高い。 「自分には、よいところがある」「先生はよいところを認めてくれている」など、自己肯定感が高く、承認欲求が満たされている児童の方が正答率が高い。
生活状況	<ul style="list-style-type: none"> 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる児童の割合は、全国平均を上回っている。 地域の行事、活動に参加している児童の割合は、全国平均を上回っている。 家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は、全国平均を下回っている。

《中学校3年生》

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	<p><u>よくできている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・視点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える力がたいへん優れている。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む力がたいへん優れている。 ・文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する力がたいへん優れている。 ・目的や場面に応じて質問する内容を検討する力がやや弱い。
数学	<p><u>たいへんよくできている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取る力がたいへん優れている。 ・反比例の意味をたいへんよく理解している。 ・複数のデータ分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力がたいへん優れている。 ・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する力がやや弱い。
英語	<p><u>たいへんよくできている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を正確に聞き取ったり、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ったりする力がたいへん優れている。 ・文と文の関係を正確に読み取ったり、社会的な話題について、短い文章の要点を捉えたりする力がたいへん優れている。 ・未来表現の肯定文や、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書く力がたいへん優れている。 ・日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を伝える力がたいへん優れている。 ・疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用する力が弱い。
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝食を毎日食べる」生徒は、そうではない生徒に比べ正答率が高い。 ・「自分には、よいところがある」「先生はよいところを認めてくれている」など、自己肯定感が高く、承認欲求が満たされている生徒の方が、正答率が高い。 ・1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器が多く使われていたと感じている生徒の割合は、全国平均を大幅に上回っている。
生活状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒の割合は、全国平均を上回っている。 ・「学校に行くのは楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じている生徒の方が正答率が高い。 ・地域の行事、活動に参加している生徒の割合は、全国平均を上回っている。 ・家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合は、全国平均を下回っている。

2 岡崎市教育委員会の指導改善等の取組

- (1) 国語、算数・数学、英語における岡崎市の児童生徒の学力と、学習環境と学力との相関関係、学校での授業や家庭での生活習慣等の改善すべき内容を詳細に把握します。
- (2) (1)の分析結果を受け、その授業改善案等を教育委員会が各学校へ伝え、必要に応じて担当指導主事等が学校訪問を行い、改善状況を確認したり、指導したりします。
- (3) 各学校で行っている「教育診断アンケート(学校評価)」を利用して、学校や教員が自己評価を行い、日々の授業の成果と課題を明らかにし、新たな授業改善の具体的な対策を立て、取り組むよう指示します。
- (4) 子供たちの生活習慣や学習環境が学力に影響を及ぼすことを、家庭や地域に周知した上で、家庭や地域と連携しながら改善を図る取組を行い、総合的な学力の向上に努めるよう、各学校に対し指示します。

3 備考

- (1) この調査は、子供たちの学習状況の改善を図るために参考とするものです。
- (2) この調査で測定した学力や学習状況は、特定の一部です。
- (3) 学校では、成果と課題を把握し、授業改善に努めます。
- (4) 各家庭においては、児童生徒が学習に意欲をもって取り組むことができるよう、学習環境や生活習慣の充実・改善を図っていただきますようお願いいたします。